

第11回

## 山と山のあいだ

## 夢の後に

## 人と町をつなぐ映画祭

毎年、年が明けると、行けるかな？行けないかな？今年はどうな映画の上映をするんだろうと、気になって仕方がない。2～3月は「ゆうばり国際ファンタスティック映画祭」の月だ。(2019年は3月に開催予定)この映画祭は1度でも参加したら、2度行きたくなる。そして、2度行くと毎年行きたくなくなってしまふ映画祭。そして会期中、野外で行われるストーブパーティーは、映画祭の風物詩だ。寒さのなかストーブに当たりながら食べる屋台料理は格別なのだ。1990年に始まった映画祭は2019年で29回を数える。運営に関わる方々のご苦労を思うと頭が下がる。

私は生まれは東京だけれど、小、中、高と夕張で暮らしたのでふるさととは夕張だと思っている。山々に囲まれた四季折々の風景が原風景として私の中に刻まれている。ちなみに私が過ごした地区は映画祭が開かれる本町と反対側にある南大夕張地区だ。十数年前、母とこの地区を訪れた。商店街は廃屋になり、社宅などが取り壊され原っぱになっていた。その変わりように、私も母も絶句してしまった。「夏草やつわものどもが夢の跡」ほんとうにそんな感じだった。この地区には大きなダム湖のシューパロ湖が近年できて、住んでいた地域のすぐそばまで広がっている。

「夕張が破綻した」というニュースが駆け巡ったとき、夕張は？友人たちは？映画祭は？どうなるのか、とてもハラハラした。それから約12年が経って、市役所の友人たちは再建に尽力し、映画祭も続いている。この映画祭は、夢の後に続く、希望溢れるイベントなのだ。過疎で消え行く町は、これからも少なくないただろう。できるだけふるさとがなくならないようにと、新年に願わずにいられないのである。



### すずき もも

イラストレーター・絵本作家／スローフードさっぽろリーダー

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。代表作に「さっぽろおさんぽ日和」(北海道新聞社)、近著に絵本「はるとなつはたけのごちそうなーんだ？」(アリス館)と2018年1月に出版した「おいしい大地、北海道」(イースト・プレス)がある。また、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: ささやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにここと」。



うさぎやの  
シナモンドーナツ!  
シモコ香るドーナツ!  
なかにはほしあんかぶりだり!

夕張あきんど屋の  
究極の  
×ロン  
ソフト

半分に切った×ロンに  
ソフトクリームか!

夕張に  
行ったか  
たべたい

名物! かしこは!  
113人ほお店で  
提供して113のじ  
食べ比べしてみよ!